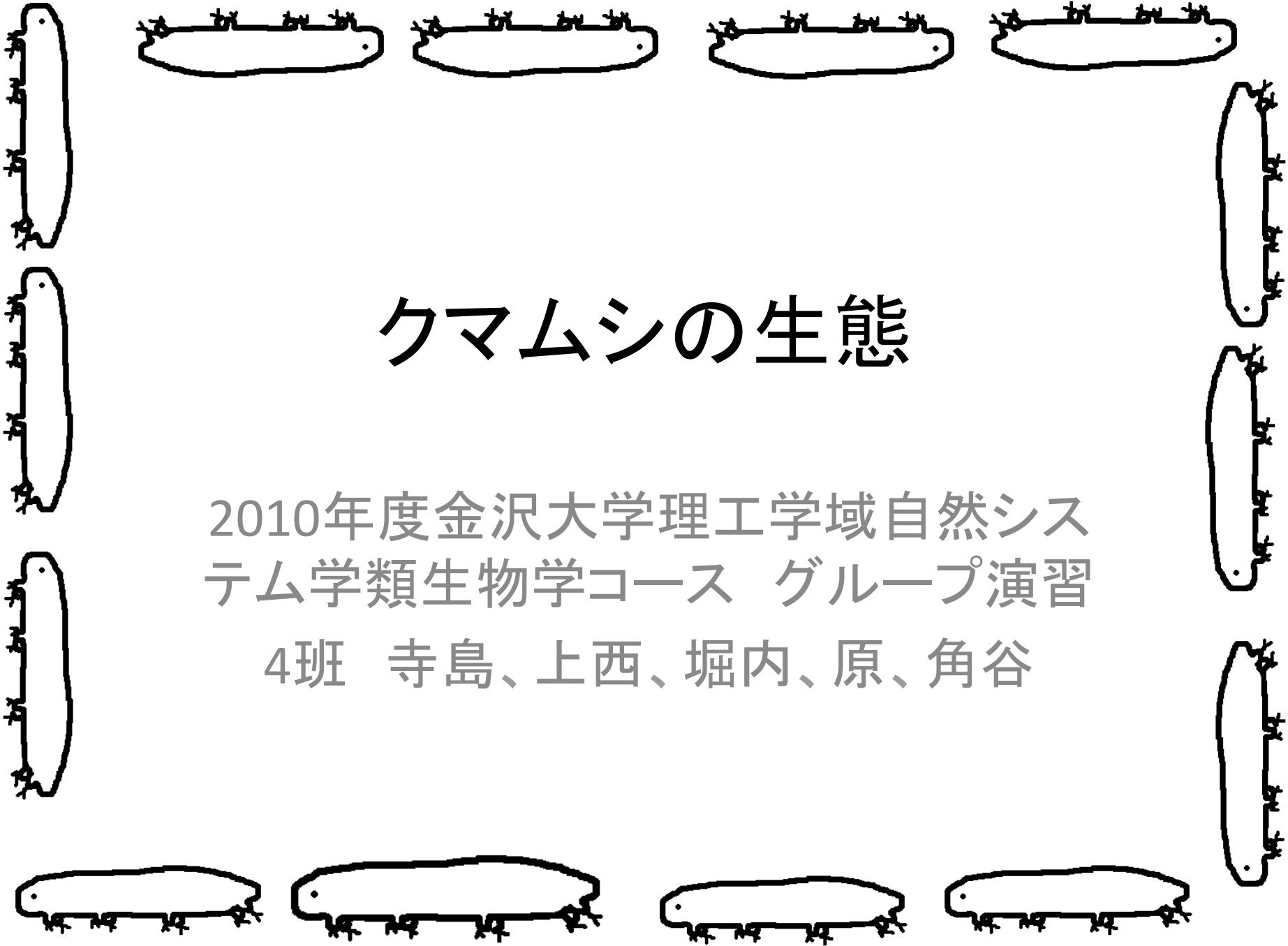




クマムシの生態

2010年度金沢大学理工学域自然システム学類生物学コース グループ演習

4班 寺島、上西、堀内、原、角谷

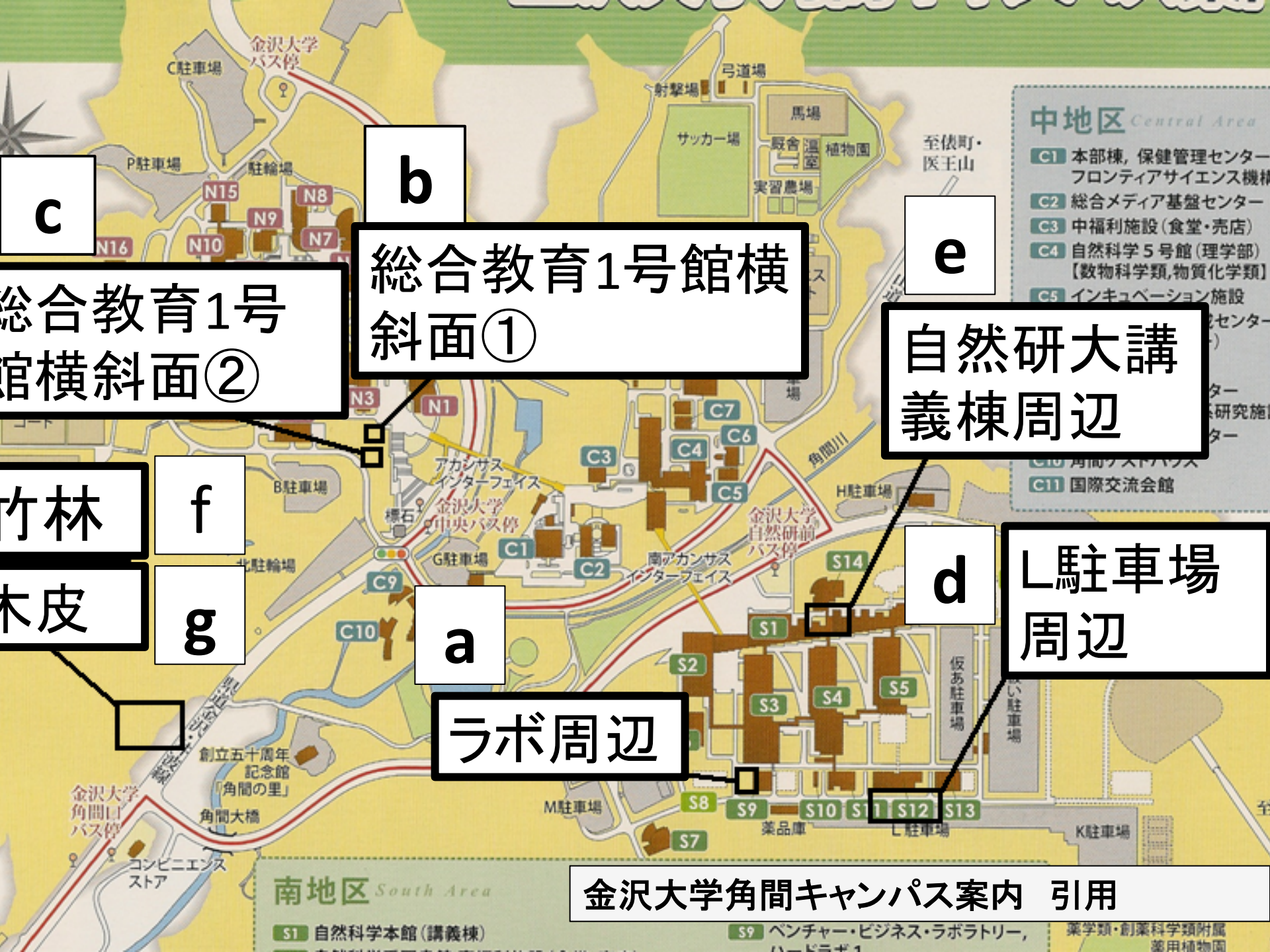
実験目的

- クマムシはどこにでも生息していると言われて
いるが、実際はその生息環境において、そ
の特徴や個体数にどのようなちがいがあるの
かについて興味を持ち、金沢大学のクマムシ
の生息地マップの作製しました。

調査区の設定

金沢大学キャンパス全域に7か所

- ・コケが生育している場所6か所、ササが生育している場所1か所
- ・日当たりの善し悪しについて考慮に入れた



c

総合教育1号
館横斜面②

b

総合教育1号館横
斜面①

e

自然研大講
義棟周辺

竹林

f

木皮

g

a

ラボ周辺

d

L駐車場
周辺

金沢大学角間キャンパス案内 引用

a. ベンチャービジネスラボラトリー周辺

コケの種類: アオギヌゴケ(50%)ハイゴケ(50%)

日当たり: 半日陰地



b. 総合教育1号館横斜面①

コケの種類: シノブゴケ(100%)

日当たり: 半日陰地



c. 総合教育1号館横斜面②

コケの種類:スナゴケ(100%)

日当たり:日当たり地



d. L駐車場周辺

コケの種類:ギンゴケ(100%)

日当たり:日当たり地



e. 自然研大講義棟周辺

コケの種類: タチゴケ(100%)

日当たり: 半日陰地



f. 角間坂沿い竹林
笹の葉
日当たり: 日陰地



g. 木皮

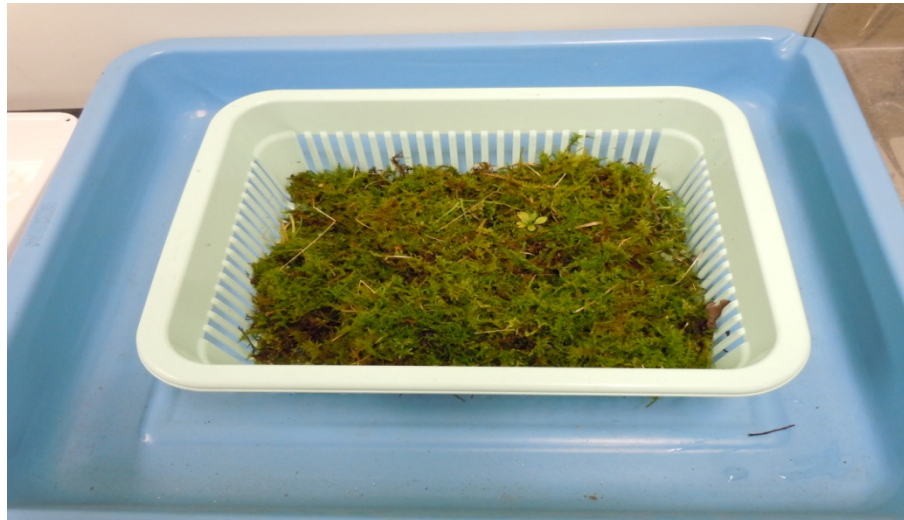
コケの種類: ヒムロゴケ(100%)

日当たり: 日陰地

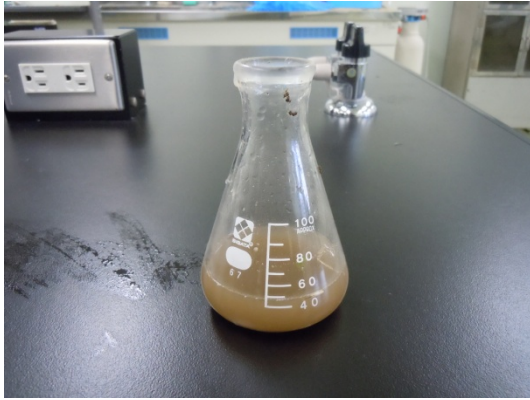


観察方法

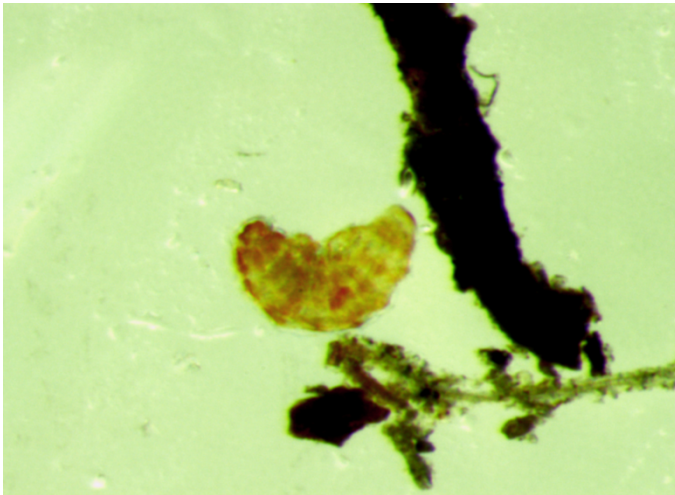
- ①各調査区からコケまたはササ(30cm×25cm)を採取
- ②水(およそ8L)に1時間浸し放置



③沈殿した砂を含む水250mlを採取

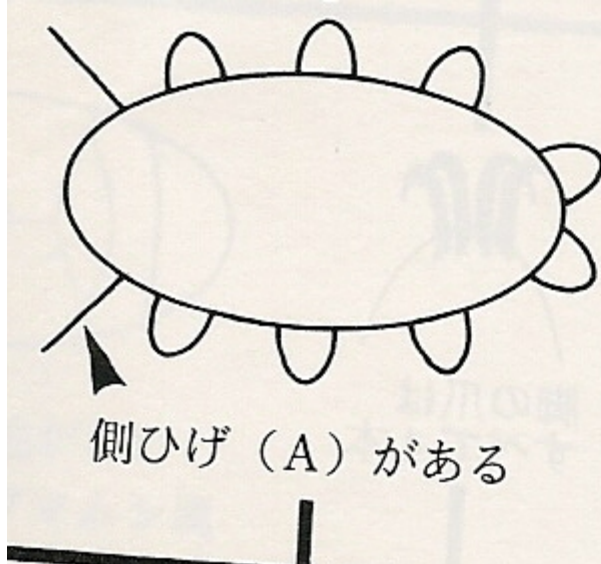


④実体顕微鏡で観察

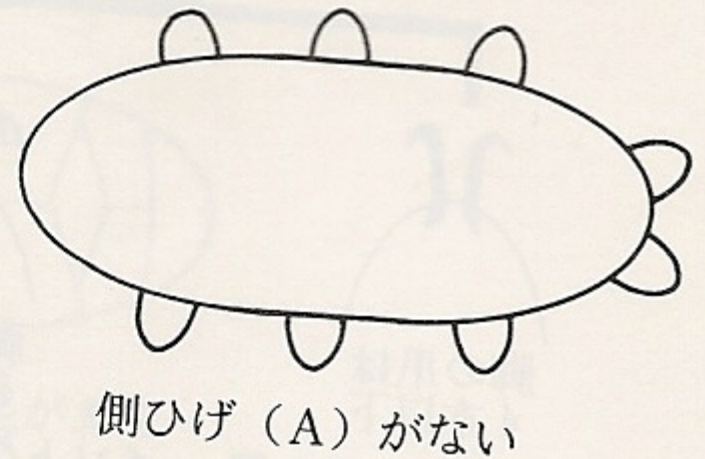


⑤クマムシの形態を光学顕微鏡で観察して同定

綱：側ひげの有無

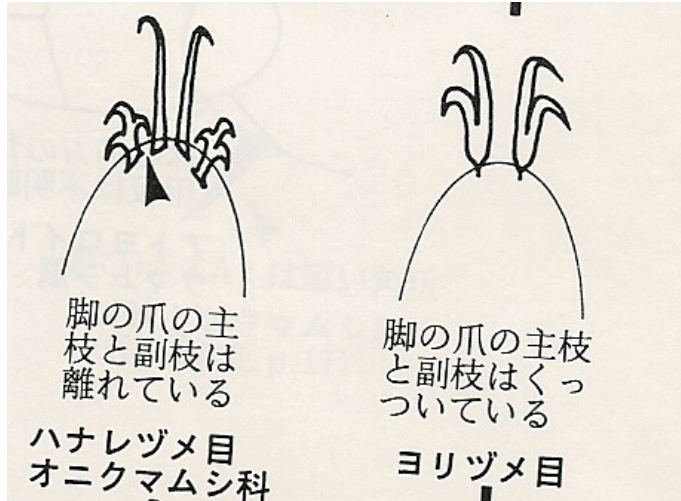


異クマムシ綱

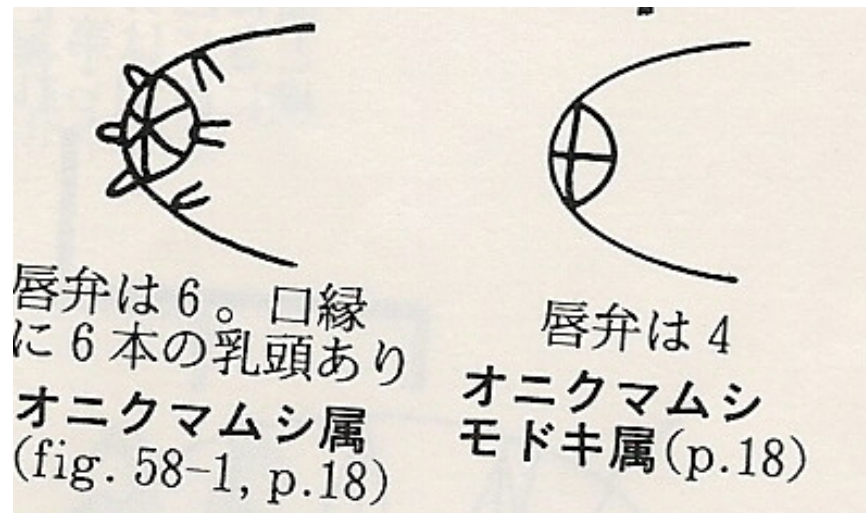


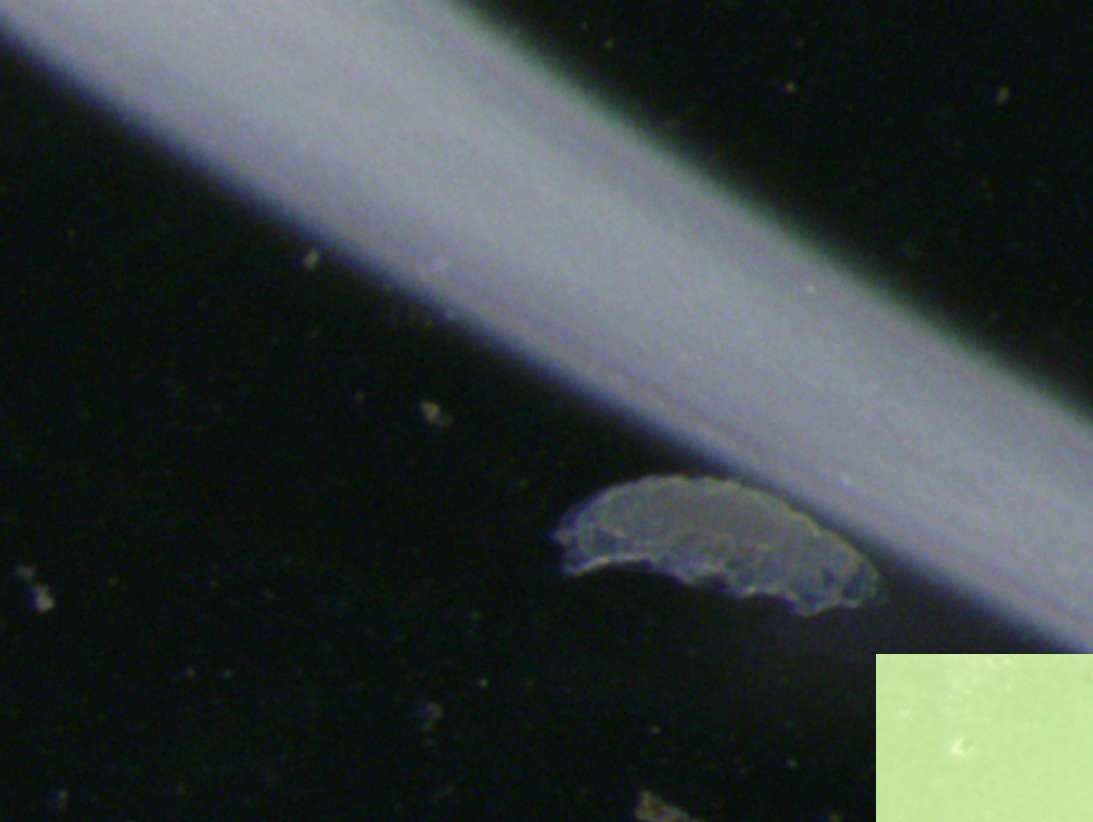
真クマムシ綱

目：爪の形状



科：唇弁やその他の特徴





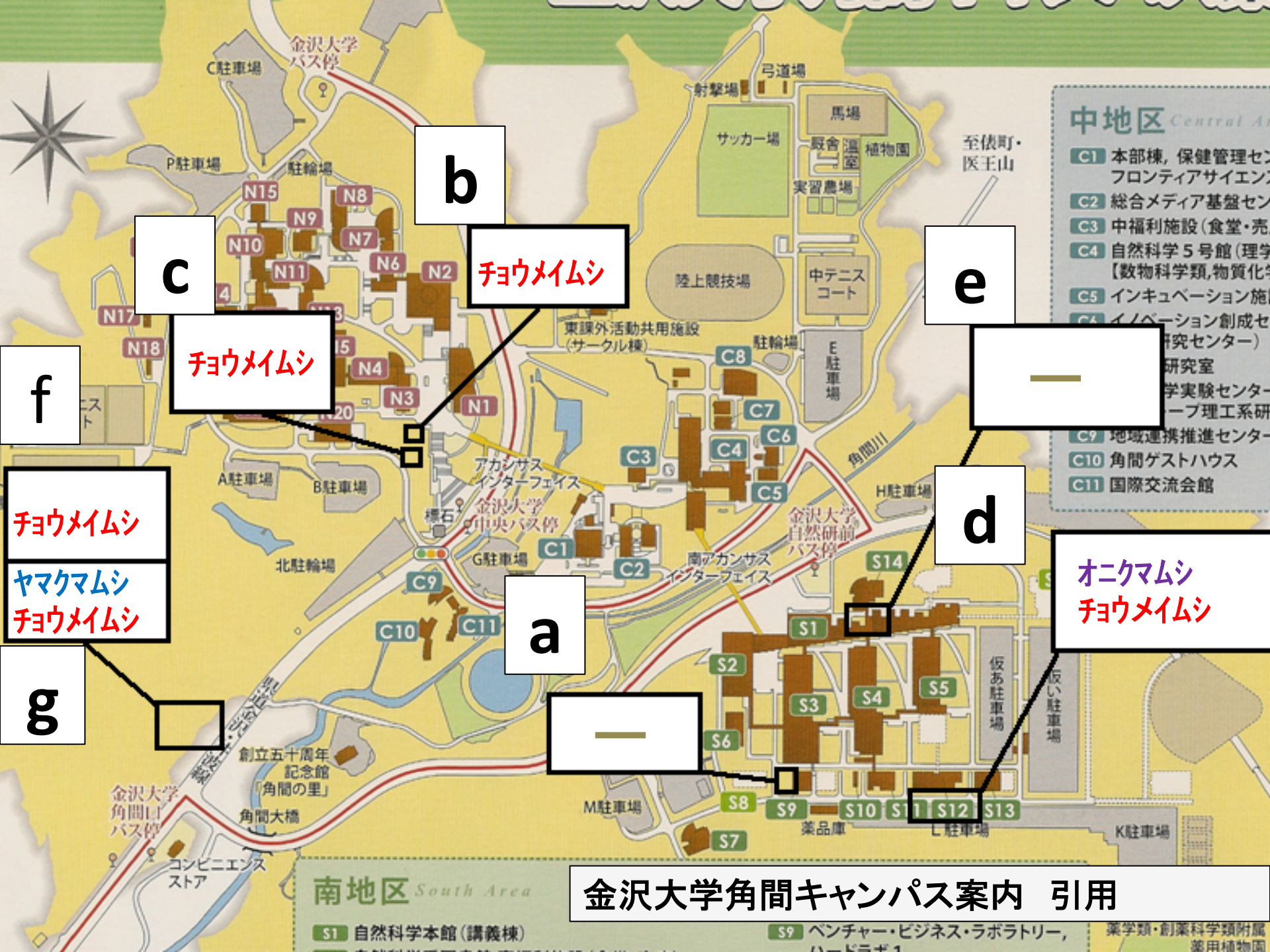
↑ チョウメイムシ科

↓ オニクマムシ科



まとめ

	コケの種類	日当たり	他の生物	砂粒	クマムシ
a. ラボ周辺	アオギヌゴケ(50) ハイゴケ(50)	△	センチュウ ワムシ、ダニ	細かい	0
b. 教育棟 斜面①	シノゴケ(100)	△	センチュウ ワムシ	普通	チョウメイムシ(11)
c. 教育棟 斜面②	スナゴケ(100)	○	センチュウ ワムシ	普通	チョウメイムシ(39)
d. 駐車場	ギンゴケ(100)	○	センチュウ ワムシ、ミズ	細かい ～普通	オニクマムシ(14) チョウメイムシ(43)
e. 大講義 棟周辺	タチゴケ(100)	△	コウチュウ センチュウ	細かい (粘土質)	0
f. 竹林	(笹)	×	センチュウ		チョウメイムシ(4)
g. 木皮	ヒムロゴケ(100)	×	センチュウ ワムシ		ヤマクマムシ(2) チョウメイムシ(1)



中地区 Central Area

- C1 本部棟, 保健管理セン
フロンティアサイエン
- C2 総合メディア基盤セン
- C3 中福利施設(食堂・売
- C4 自然科学5号館(理学
【数物科学類,物質化
- C5 インキュベーション施
- C6 インキュベーション創成セ
- C7 研究センター)
- C8 研究室
- C9 学実験センター
- C10 ーブ理工系研
- C11 地域連携推進センター
- C12 角間ゲストハウス
- C13 国際交流会館

金沢大学角間キャンパス案内 引用

南地区 South Area

- S1 自然科学本館(講義棟)
- S2 自然科学本館(講義棟)
- S3 自然科学本館(講義棟)
- S4 自然科学本館(講義棟)
- S5 自然科学本館(講義棟)
- S6 自然科学本館(講義棟)
- S7 自然科学本館(講義棟)
- S8 自然科学本館(講義棟)
- S9 ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー,
ハービタ
- S10 薬学類・創薬科学類附属
薬用植物園
- S11 薬学類・創薬科学類附属
薬用植物園
- S12 薬学類・創薬科学類附属
薬用植物園
- S13 薬学類・創薬科学類附属
薬用植物園
- S14 薬学類・創薬科学類附属
薬用植物園

考察

- 観察されたクマムシは真クマムシ綱であった。
- 他の生物の個体数が多いと、クマムシの個体数も多かった。
- 調査区a、eではクマムシが観察できなかったが、コケの種類あるいはコケの生育している土壌が原因ではないかと考えられる。
- 調査区dにのみ肉食のオニクマムシが観察された。
- 日当たりとクマムシの生息数との間の関係はみとめられなかった。

参考文献

- 日本産土壌動物検索図説／青木淳一編
(東海大学出版会)
- ・フィールド図鑑・コケ／井上浩
(東海大学出版会)

